



原田文孝

はらだ ふみたか / 1956年岡山県生まれ。兵庫県加古川市で肢体不自由養護学校に31年勤める。教員退職後も障害福祉の職場で障害の重い人たちとかわり続ける。NPO法人ささゆり会代表

# 私に

# 人生と

# 言えるものが

# あるなら



## 第2回 一日は人生を刻むもっとも大切な時の単位

### 一人の人間として尊重してほしい

前回、佐藤さん(仮名)が他者のかかりが不安で、自分の手を噛んで激しく怒るようになっていった背景を考えました。①「愛してほしい」という愛情要求の表れ、②「されていることをわかりたい」という能力要求の表れ、③「一人の人間として尊重してほしい」という人権要求の表れととらえて、その要求に応える生活指導の実践をお話ししました。

この能力要求と人権要求が基本的な人間の要求であると、若いころ神戸大学の齋藤浩志さんから学びました。知的障害のある私の息子は、小さい頃「ぼく好き?」「ぼくえらい?」とよく言っていました。「ぼく好き?」という問いは、「無条件に愛してほしい、人として尊重してほしい」という人権要求の言葉であり、「ぼくえらい?」は自分の頑張りを認めてほしいという能力要求の言葉であったと思うのです。今、アルバイトで働いている息子は、「おつかれさん」とよく言います。仕事が終わりに退社する時に「おつかれさん」という言葉をかけ合うのでしょう。この「おつかれさん」という言葉には、一日仕事を頑張れたこと、そし

て、頑張った自分を認めていることが感じられます。「おつかれさん」に能力要求と人権要求が表れていると思っております。

佐藤さんの「一人の人間として尊重してほしい」という人権要求をどうとらえ、どのように応えていったのかお話ししたいと思います。

### 男前になろう

佐藤さんの朝は、温かいおしほりで顔を拭くことから始まります。この顔を拭くことも大嫌いで、激しく怒っています。佐藤さんにとっては、顔をおしほりで拭かれる意味がわからないので、強制的に顔におしほりを押し付けられると不快であり、恐怖であったと思うのです。そして、一日のどこかで髭剃りがあります。髭剃りはもっと嫌いで激しく怒ります。電気カミソリで髭を剃るのですが、

職員さんは佐藤さんの顔を固定し電気カミソリを動かして髭を剃っていきます。佐藤さんは、この髭剃りの意味もわからないし、顔を動かさないように固定される

ことが嫌なのです。私でも意味もわからず、顔を押しえつけられて、「ブーン」と音のしている振動する機械を顔に押し

付けられるのは恐怖です。佐藤さんが不安で怒るのもわかります。毎日繰り返しされる顔を拭くことや髭を剃ることは、佐藤さんにとっても職員さんにとってもつらい時間になっていました。

私はこの顔を拭くことや髭を剃ることを朝の「洗面、みだしなみ」の文化としてとらえ、佐藤さんに届ける授業を考えました。授業「男前になろう」です。授業づくりの視点を次のように考えました。

①前回お話ししたように、佐藤さんは鏡に映っている自分を意識し始めました。発達の10ヵ月ごろの力の獲得をめざしているとすれば、自分に関心が向いてくるころだと思のです。よき自分を感じたいというねがいに応えたいと思いました。

②42歳の佐藤さんに「男前、かっこよくになりたい」という大人の要求をもってほしいとも考えました。

③佐藤さんが一番不安になるのは、されていることの意味がわからないことだと思のです。顔をおしほりで拭いた時の気持ちよさを、「気持ちいいね」という言葉かけで共感していく応答的な関係がないことで意味がわかりにく

いと考えました。また、顔を拭いた後すぐに髭を剃るという活動の流れ(ストーリー)があれば、顔を拭くことも髭を剃ることも意味づけやすく、わかりやすいと思うのです。

### 佐藤さんの孤独と闘い

このように考えて、①活動の意味(生活文化)がわかり、安心して他者のかかりを受けとめられる、②気持ちよさ、かっこよさに気づき、よき自分を感じられる、という2つの目標を立てました。

私は、その頃、佐藤さんが他者とのかわりが不安で、人間不信に陥っていることから、漠然と佐藤さんは孤独ではないかと思っていました。佐藤さんのベッドには何も置いてありませんでした。異食すると思われていたのです。何もなく何もすることがない佐藤さんは孤独な時間を過ごしていると思っていたのです。しかし、今改めてこの佐藤さんの孤独を考えると、「一人の人間として尊重してほしい」という人権要求とつながりがあったのではないかと思えるようになりました。